

## 夜這い棒

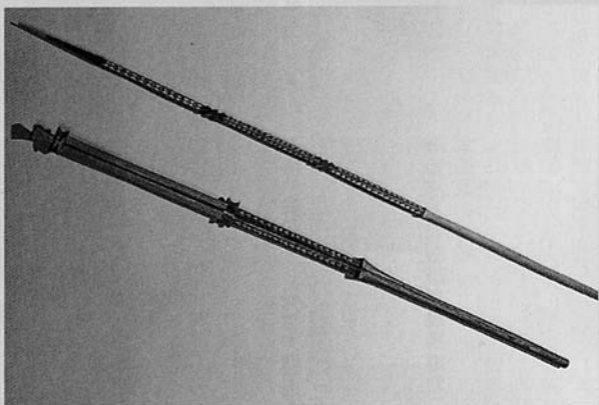
よばい棒(標本番号K5872(上)K413(下)) カロリン諸島のチューク諸島

須藤 健一 (すどう けんいち)

神戸大学教授

トラック(現チューク)の若者は生業活動を年配者に任せ、戦い、航海、性などの知識の習得に専念し、「男らしく」振舞うことが期待されてきた。性知識として、恋心を相手に伝える伝統的な手法は、「夜這い棒」と「ほれ葉」である。男性は精魂込めて自分のデザインを棒に刻み、夜這い棒を作った。

男性はこの棒をもち歩き、意中の女性に出会うと棒の刻みを見せびらかし、また触れてもらう。その効果は夜にあらわれる。男性は夜這い棒を肩にお目当ての女性宅へ出かける。彼女が家のどこに寝ているかは予想がつく。家屋はヤシの葉葺きの屋根と壁で、男性は壁越しに夜這い棒の先を差し入れ、彼女の髪の毛にまきつける。彼女はその棒に手をやり、彫刻で相手が誰かを知る。お気に入りだと、棒を二回引く。「どうぞ家の



なかに入りなさい」という合図。もしくは一回引いて一回押すと「私が外へ出てゆく」という意味である。関心のないやつには二回とも押し返す。間違つて母親を起こして、「盗人」と騒がれて面目をつぶす、間抜けな男性もいた。

家屋は木造やコンクリート製へと変わり、夜這い棒の効力はうせた。それでも、若者は手紙や電話ではなく、窓から注射器で水を寝ている彼女の顔面直撃という手荒なやり方など、夜這い棒のかわりにしている。一方、芳香性の植物や樹液を何種類も調合した秘伝の「ほれ葉」(トラックの香水)は、今でも健在である。

最近、携帯電話がやりだした。トラックの若者が、携帯電話の威力を愛の伝達の伝統と組み合わせ、どんな新しい「性文化」を作り出すか楽しみである。